

普及課だより

東三河農林水産事務所農業改良普及課
(東三河農業普及指導センター)

No. 47

 2018.10

〒440-0833 豊橋市飯村町高山11-40

TEL : (0532)63-3529 FAX : (0532)63-7023

HP : <http://www.pref.aichi.jp/>

nourin-higashimikawa/higashimikawa-fukyu/

新しい技術の紹介

小麦新品種「ゆめあかり」の 施肥体系の改善による品質向上

パン・中華めん用の小麦新品種「ゆめあかり」の東三河管内における従来の栽培は、「元肥+実肥」の施肥体系で行われてきました。しかし、実肥施用時期が水稻の移植期である4月と重なるため作業の競合が起きること、蛋白質含量が低く品質が安定しないことが問題でした。

そこで、農業総合試験場が開発した実肥成分を含む「ゆめあかり専用肥料」を元肥に使用することで、作業の分散と品質向上を目指しました。専用肥料は実肥の施用を省略できますが、それ以前の追肥が必要となります。そこで、今年度は追肥のタイミングと量を変える試験を行い、施肥体系の確立を目指しました。

その結果、1月と3月に2回追肥を行うことで、作業分散を図るとともに、高い蛋白質含量を得ることができました。

これらの結果を踏まえ、農業改良普及課では新しい施肥体系に沿った栽培指導を行うていきます。



天敵利用アンケートを実施！ イチゴのハダニ類防除

イチゴに寄生するハダニ類は化学農薬に対する抵抗性の発達が著しく、天敵を利用した防除技術の確立が急務となっています。東三河管内では、天敵保護装置である「バンカーシート」などの天敵資材が多く普及していますが、導入方法や環境による影響を受けやすく、生産者ごとに効果が異なることが課題となっています。

これらの現状を踏まえ、農業改良普及課では各JAと協力し、生産者へ天敵利用状況アンケートを実施しました。アンケートでは、ハダニの防除方法、天敵導入時期、被害状況など詳細な聞き取りを行うことで天敵利用実態を把握を行いました。

その結果、天敵を利用している生産者はハダニ被害が軽減されている傾向が見られ、天敵の防除効果を確認できました。また、定植前にハダニ類密度を軽減できている生産者は、天敵の利用効果も高い傾向が見られました。これらの結果を踏まえ農業改良普及課では、より安定的な天敵利用マニュアル作成に取り組みしていきます。



バラの増収に向けた新技術 「改良切り上げ方式」を実証

JA豊橋バラ部会では、主に「アーチング方式」による樹形管理が普及しています。「アーチング方式」は切り花が太く長くなりやすい反面、収穫本数は少なくなる傾向があります。

農業総合試験場で開発された「改良切り上げ方式」は、株元からの高さを揃えて切り上げていく方法です。この方式により、萌芽が早く、また芽数が多くなるために収穫本数の増加が期待されます。

今年4月から部会員1名が現地の実証試験に取り組んでおり、農業改良普及課ではその収量性や経済性を調査しています。これまでの収量・生育調査の結果、「改良切り上げ方式」で「アーチング方式」より32%増収し、さらに切花長も長くなる傾向がみられました。

今後は、収量・生育調査に加えて経済性についても調査を行っていき、「改良切り上げ方式」を実証をする予定です。



管内農業の話題

4 Hクラブ員がラジオに出演して

男女交流会をPR

東三河4Hクラブ連絡協議会では、クラブ員の出会いの機会を拡大するため、毎年一般女性との男女交流会を開催しています。女性参加者の募集には、市や農協の広報、フリー雑誌など様々な媒体を活用しています。今回、女性参加者を増やすための新たな試みとして、クラブ員の村松大輔氏が、8月29日にFM豊橋の情報番組に出演しPRを行いました。

放送当日、村松氏は4Hクラブのロゴの入ったTシャツで臨みました。生放送ということもあり、緊張している様子でしたが、リスナーへの参加者募集に加えて、4Hクラブの活動についてもしっかりとアピールしました。



J A豊橋トマト部会が日本農業賞を受賞!

J A豊橋トマト部会(149戸)は、第47回日本農業賞(集団組織の部)大賞を受賞しました。今回の受賞は、①養液栽培技術を地域の企業と連携して改良を重ね、部会面積の三分の二までに普及したこと。②地域モデルとなった高軒高ハイワイヤー誘引と施設内環境制御の開発導入。③消費者のニーズに対応して、糖度9度以上の麗、7度以上の美、6度以上の愛などをブランド化したことで、売り場の確保を行った事。④四十代、五十代の部会員層厚く、後継者の就業率が高く、世代交代が着実に進められている事により、トマトの販売額が16年間で2倍に達したことが高く評価されました。



「とよかわスプレーマム」が

とよかわブランドに認定される

J Aひまわりスプレーマム部会は、全国に先駆けて産地化された豊川市のスプレーマムを地元の人にもっと知ってもらい、日常生活の色々な場面ですべて使ってもらおうと、PR活動に力を入れています。リーフレットやポスターの作成・配布をはじめ、豊川稲荷で健康・長寿のご祈禱を受けたスプレーマムを介護施設に贈ったり、母の日には保育園で花束づくりのイベントを開催したりと、多彩な活動を展開しています。平成30年3月には、優れた地域資源として、豊川市観光協会の一とよかわブランドに認定されました。



「豊橋かき塾」始動!

カキの新たな担い手を支援

平成30年4月からJ A豊橋主催により、「豊橋かき塾」が開始しました。豊橋かき塾は1年に5回、土曜日の午前中に開催し、1年間を通じたカキの栽培管理を講義及び実習で学びます。豊橋市内の定年帰農者などのカキ栽培初心者29名が申し込み、これまでにカキの摘蕾や摘果等の栽培管理を学ぶことができました。講義では普及指導員が説明し、その後の実習では、数名ずつのグループに分かれ、柿部会役員やJ A職員、普及指導員とともに、管理ポイントを確認して作業します。今後は、12月22日に第5回を予定しています。



普及課からのお知らせ

豊橋4Hクラブと地元大学生グループによる初の取り組み!

第64回ええじゃないか豊橋まつり農産物博覧会へ出店します。是非、お立ち寄りください。

内容：クラブ員が育てた地元農産物を、地元大学生のアイデア等により楽しくPRします。

日時：平成30年10月20日(土)～21日(日)

会場：豊橋公園内市民プール駐車場ブース

